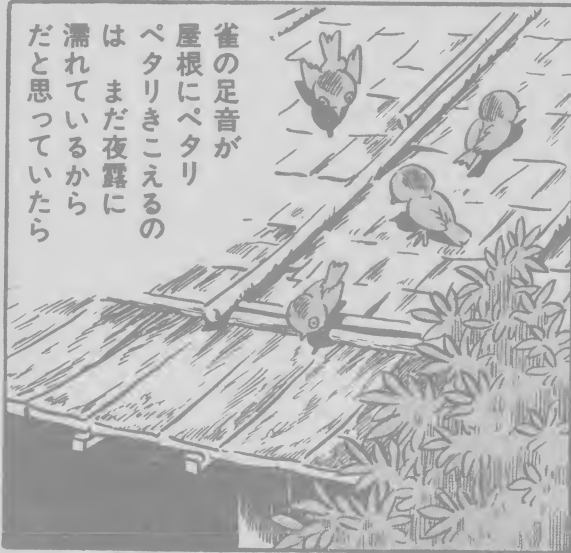
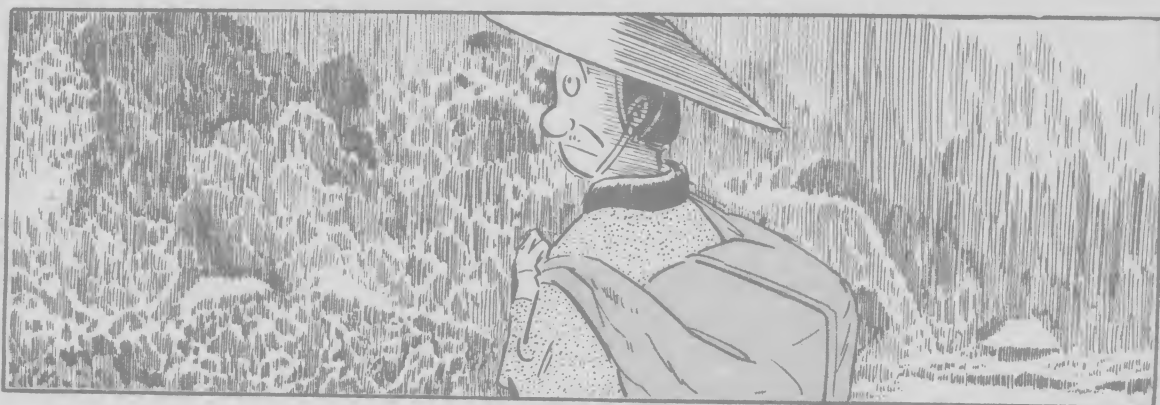
# 峠の犬

つげ義春

私の隣の家に飼われている犬は一年ほど前にこのあたりをうろついていたのら犬で五郎という名前がついております

五郎は
近所に遊び仲間
のいないせいも
あってか　庭から
外へめったに
出ません
たいてい
虫ケラや
小鳥なんかを
かまったりして
遊んでいる
ようです

私は近頃
年のせいでしょう
か　朝早くに
目がさめます

雀の足音が
屋根にペタリ
ペタリきこえるの
は　まだ夜露に
濡れているから
だと思っていたら

それは五郎の
水を飲む
音でした
そのような
動作は　いっそ
う無口で
無愛想な感じ
をあたえます

私は各地の
温泉宿を
回り女中さんに
反物などを
売り歩く
行商をして
おります

見送りのつもり
なのでしょうが
草をかんだり
そっぽをむいたり
していて　すぐに
引返して
しまいます

旅から帰って
くるときも
そのようにして
迎えにきて
いるはず
なのです

おーい
その魚を
少しわけ
てくれん
かの
わりァ
このヘラ
を食う
気か

わしは腹がふくれているので犬にやろうと思うのだが
こったらなもの犬にくァすはおしかろ

私は五郎にみやげをもって帰るのははじめてです

いままで考えもしなかったことを思いついたりしたからいけなかったのです

それから　また冬が過ぎ

五郎は　もう十日も前から行方不明になっていました

山に雪の消える
のを待って
私はまた
行商に
出ました

いつものように
街道の左右に
別れる処まできて
私は急に右の
道を行く気に
なってしまった
のです

この道は
山を二ツ越えると
合掌峠に出るの
ですが
それから先は
私の商売に不向きな
処なので　まだ一度も
行ったことが
ありません

自分には用の
ない道なの
ですが　フト　どち
らへ行っても　たいし
た違いはないよう
な気になって
しまったのです

合掌峠の名前は　昔　この
峠の頂上で　乞食が西に
向かって合掌したまま息た
えていたので　そうよばれる
ようになったそうです

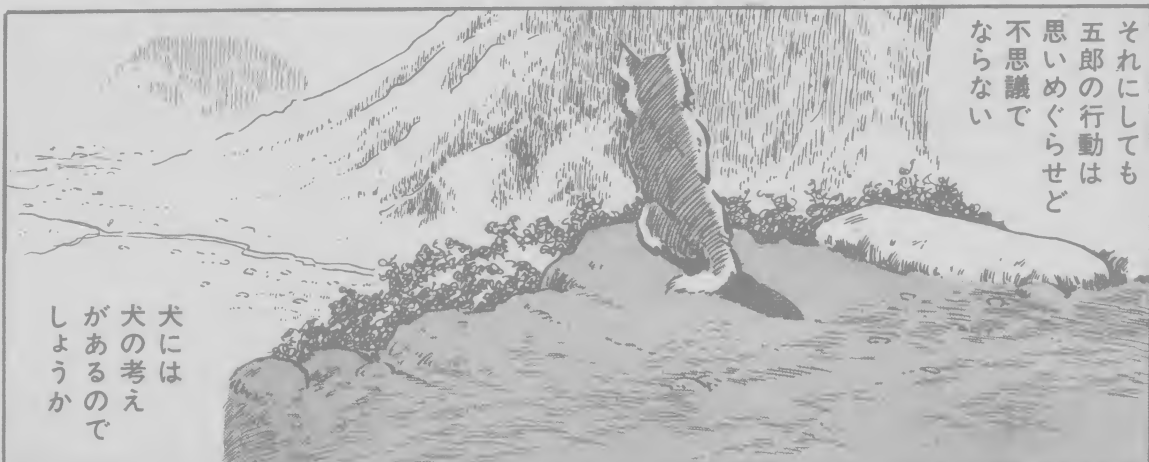
峠の茶屋で
私は五郎に
出遇いました
それは
まぎれも
なく五郎
でした

右の耳が
動かない
のをみて
もわかり
ます
五郎！

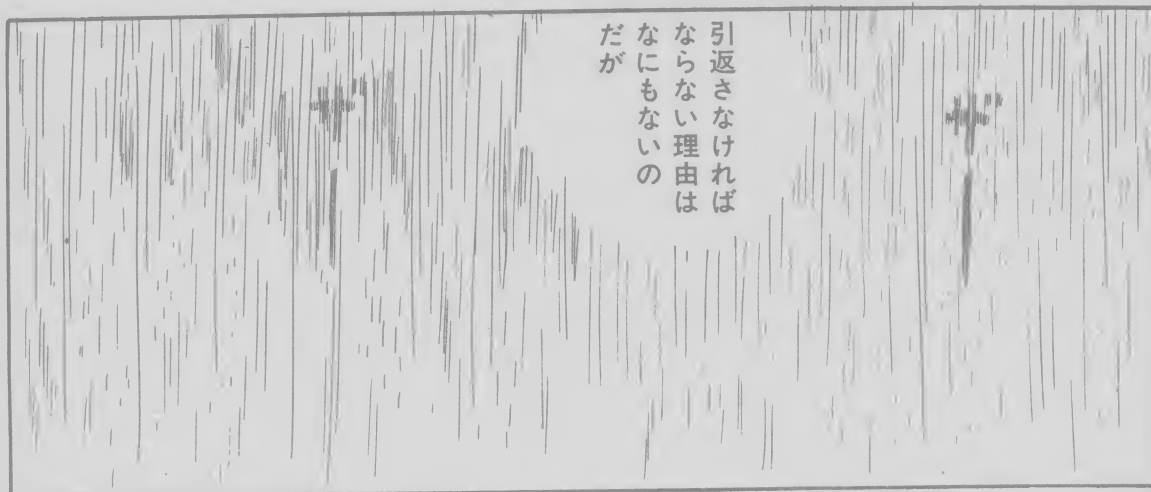
そのような呼び方をしても返事はしませんハチというのです

この犬は変わりもので一昨年行方不明になったのが ヒョッコリ戻ってきたのです

一年間もどこをうろついていたのかその気がしれません

私は五郎の行方を知っていることになるのだがそれは黙っていた

それにしても五郎の行動は思いめぐらせど不思議でならない
犬には犬の考えがあるのでしょうか

それとも
私が　この峠に来た
のと同じように
フト　気がむいた
だけのことなの
かもしれない

しかし私は
もと来た道を
引返さなければ
ならない

引返さなければ
ならない理由は
なにもないの
だが

昨夜から降りだし
た雨で　五郎は
小屋の中でねそ
べっている
相変わらず
無愛相な
その様子からは
私のことを覚え
ているのかどうか
わからない

42・5・30

# 「ガロ」三周年記念！

## 9月特大号 ―予告―

本誌も次号で創刊三周年を迎えます。そこで、その記念号として二六八頁の増大版をお贈りする予定です。

定価は普通号と同じ一五〇円！

――オール書下ろし――

〈作品〉

連載
カムイ伝㉝　白土三平
鬼太郎夜話④　水木しげる

読切
湖畔の風景　つげ義春
人間模様　水木しげる
風法師　滝田ゆう
人間蒸発　永島慎二

楠勝平・勝又進・つりたくにこ
やすだたくお・池上遼一　ほか
新人力作短篇
（メンバーに多少の変更があるかもしれません）

七月末全国一斉発売！
お近くの書店で早目にご予約下さい

---

戦後漫画に挑む研究評論誌

## 漫画主義 第2号

白土三平のドラマツルギー　石子順造
エロイム・エッサイム！
「悪魔くん」論　森　秀人
■特集・子どもマンガ■
子どもと暴力　佐藤忠男
石森章太郎の世界　浦辺文夫
子どもの夢の行方　山根貞男
個と群　島村省吾
線相学入門　桜井昌一
「沼」から「通夜」へ
つげ義春論　波多川哲
被害者意識の勝利と破綻②
佐藤まさあき論　権藤晋
●つげ義春作品リスト
＜150円・〒30・6月下旬発行＞

購読ご希望の方は誌代を添えて下記あてお申し込み下さい
東京都新宿区十二社
420　鹿又アパート　漫画主義発行所

---

## 新人作家募集!!

「ガロ」編集部では、優秀な新人作家を募集しています。どしどしご応募下さい。

――〈作品投稿規定〉――

① 題材・テーマ・モチーフ・枚数自由。
② 作品の独創性を第一とする。
③ なるべくB3判の紙に、必ずタテ27.3cmヨコ18.2cmに書くこと。コマ取り自由。
④ 墨汁または製図用黒インキを使用し、ウス墨やウス色はつけない。
⑤ セリフなどの文字は、エンピツで一字一字正しく読みやすく書くこと。
⑥ 締切日は設けず、到着次第「ガロ」編集部において審査する。
⑦ 入選作品は「ガロ」誌上に掲載し、原稿料を支払う。入選作品の版権は、青林堂に帰属する。
⑧ 応募原稿は一切返却しない。
⑨ 送り先は、東京都神田神保町1の55
株式会社青林堂「ガロ」編集部